

選考結果と総評

選考委員会 委員長 吉村 輝彦

「人にやさしい街づくり賞」も今回で20回目になります。これまでに150件を超える優れた「もの」や「活動」を表彰することができたということは、それだけ、この愛知県内で多彩な取り組みが積み重ねられてきたことを示していると同時に、愛知県内では、この分野においてあるレベルまでに到達しつつあることを示しています。それは賞に対する基準の捉え方も変わってきていることを意味します。バリアフリーやユニバーサルデザインに関して、最低限の整備は、もはや標準であって、また、「もの」を生み出していくプロセスにおいて、障がい者をはじめとして多様な人々の想いや意見を聞くことも当たり前の取り組みになってきています。このような問題意識を持ちながら、同時に、これからのミライを見据えて、審査に臨みました。

厳正なる審査の結果、今回、「株式会社主人公 風の子スクエア」「三河中山間地域で安心して暮らし続けるための健康ネットワーク研究会」「和みの散歩道の会」「みんなのいえクラブ」が選定されました。単に「箱（ハコ）」や「モノ」を整備するだけではなく、人の想いや「活動（コト）」とどのように融合させていくのかが問われています。

「ハコ」には、「コト」を喚起、誘発するチカラ（可能性）もあります。どのような「ハコ」を作ったのか、どのように「ハコ」を作ったのかだけではなく、作った後に、どのように運営していくのか、そこでどのような「コト」が興るのかが大事になっています。今回選定された取り組みの中で印象的なのは、今あるものを活用して、地域

に溶け込んでいく「コト」を興こしていくこと、すなわち、リノベーションやコンバージョンと合わせた「コト」づくりです。また、一部の人だけではなく、地域に開かれた形で、そして、多様な人々が関わっていく広がりの中で、「コト」が展開できるのかが重要になっています。

「人にやさしい街づくり」が、それぞれの地域で、主体的に、そして、持続的に取り組まれていくことを期待しています。